

基本設計概要書

市民の文化活動を盛り上げる新しいランドマーク「スパイラルガーデン」



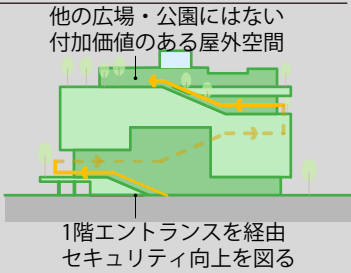
敷地概要		建築概要	
・計画地	：門真市幸福町 1 1 番地	・主要用途	：図書館/店舗/飲食店 (建基法上の想定用途/文化会館機能を含む)
・敷地面積	：3,281㎡	・構造種別	：鉄骨造
・用途地域	：近隣商業地域	・建築面積	：2,321㎡
・都市計画区域	：市街化区域	・延床面積	：7,299㎡(屋内部分6,373㎡)
・防火地域	：準防火地域	・階数	：地上 5 階

計画地のポテンシャルを活かす計画上の工夫

歩行者及び自動車、自転車の動線を極力明確に分離し、誰もが安心してアクセスできる施設計画とします。また、駅前立地における街の顔となるとともに、現在進行中のまちづくり事業の区域やその周辺の景観づくりを先導する施設として計画する必要があります。基本設計においては、これらの役割を担う施設とするための具体的な方策を設定しました。今後の詳細な設計においても本方策をもとに、より一層の進展を図るものとします。

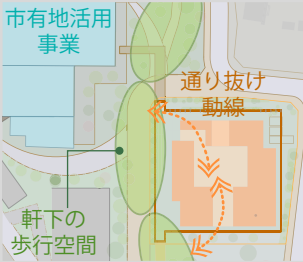
建物内外にぎわいを生み出す「スパイラルガーデン」

1 階から屋上まで建物周囲をらせん状に取り囲むテラス空間「スパイラルガーデン」を設けます。スパイラルガーデンには、各所で面する屋内での活動があふれだし、街に対して賑わいを提供します。また、下階から連続した先に繋がる屋上には、市民が利用できる屋上デッキを設け、読書の合間の休憩や、子育て世代の遊び場として機能します。高い位置から周辺の街並みを眺めたり、子どもの車道への飛び出しの心配が無い等、周囲の広場や公園とは異なる性質の公共空間として位置づけ、エリアの価値を補強します。



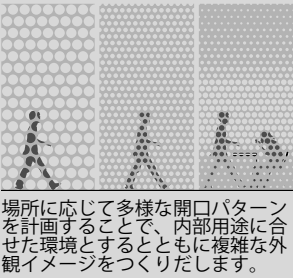
周囲の賑わいを引き込み広げる「ギャラリーウォーク」

建物内部には、1 階から屋上までを縦に貫いた大きな吹抜空間を設けます。トップライトを設け自然光が落ちる明るい吹抜とするとともに、壁面書架を吹抜に面して配し全階を繋ぐ階段を設けることで、各階で異なるアクティビティを縦断する賑やかな市民の共用空間をつくりだします。ギャラリーウォークの1 階部分は南及び北西に設けた建物出入口と繋がり、通り抜け動線としても使うことができるような計画とし、周辺エリアの活動を建物内部にも取り込み、より一層盛り上げる仕組みとして機能します。



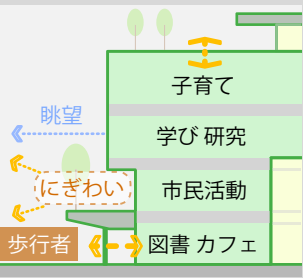
外部との関係を整える「アルミパンチングメタル外装」

建物外装には、様々な開口パターンを持ったアルミのパンチングメタルを採用し、視線や日射のコントロールを行い、快適な図書空間をつくります。また、設備ガリ等機能上現れる異要素を外装内側に設けることで、建物全体の意匠の統一感を持った外観を実現し、敷地周辺四方共に裏側をつくらない計画とします。



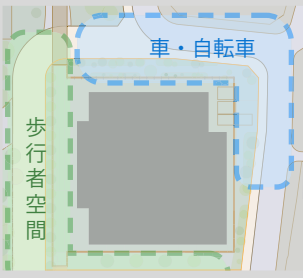
周辺環境と呼応したプログラム配置

西側の特殊道路に向けたカフェエリアの整備等、周辺環境を意識したプログラム配置を行います。また、指定管理による運営を想定した集客性や運営のしやすさにも配慮した適切なゾーニングを行います。各階で明快に区分した階別ゾーニングにより、来館者の多様な利用シーンに適切に対応できる計画とします。



歩行者中心のまちづくりに寄与する歩車分離の計画

建物四周において1 階の壁面位置を上階よりもセットバック(後退)させることで、地上レベルに軒下の歩行空間を設けます。また、敷地への車両の進入スペース、駐輪場は北東側にまとめて配置し、歩行者動線と車両・自転車利用者の動線の分離を行います。歩行者中心のウォーカブルな街づくりに寄与する計画とします。



事業概要

|(仮称)門真市立生涯学習複合施設基本設計業務委託

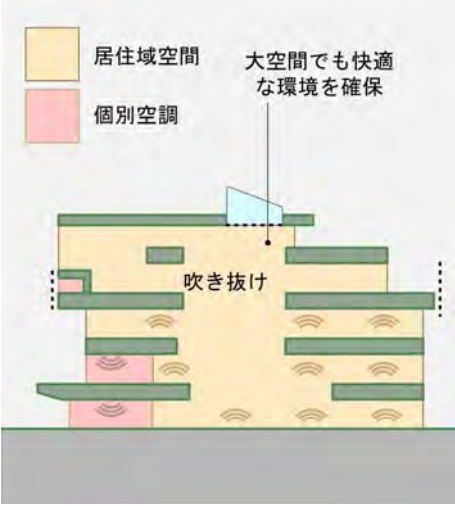
基本設計概要書

環境計画

低炭素社会に向けた持続可能な施設として、ライフサイクルCO2の削減に向けた省エネルギー・省資源に積極的に取り組み、環境負荷低減を図ります。また、設備や建材のメンテナンス性にも配慮し、維持管理負担の低減にも取り組んだ、広い意味での環境への配慮を行います。

パッシブデザインの活用による必要十分でシンプルな設備計画

テラスを介した自然採光や、吹抜空間を活用した自然換気等、積極的に自然エネルギーを利用した環境にやさしい設備計画を行います。必要十分な居住環境を確保したうえで、有効に省エネ化を図ります。また、空調についても空間の大きさや運用方式に応じて適材適所の方式を選定し、高効率を実現します。



環境をコントロールする外装計画

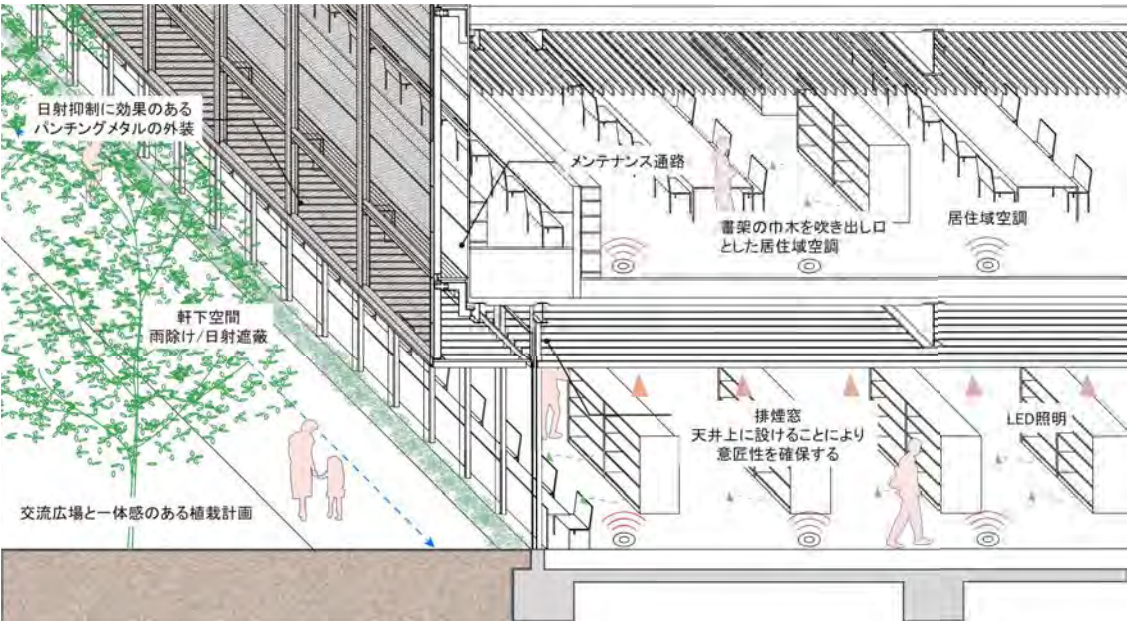
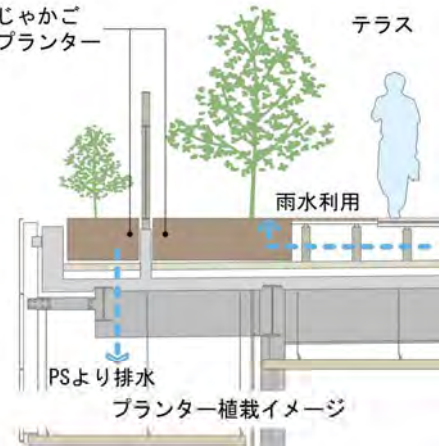
建物外周部に設けたテラスやパンチングメタルの外装により、周辺環境に応じて日射と視線をコントロールします。温熱環境への配慮や書籍等の日焼けへの対策を考慮した、実用性にも優れた施設の計画とします。

将来を見据えた総合的な建築計画

パンチングメタル外装と壁面との間にはメンテナンス用の空間を設け、足場を設けずに止水面等の補修が可能な計画とします。柱と梁のシンプルな架構計画により、将来のプラン変更にも対応しやすい計画とします。

緑豊かな施設を維持する技術的配慮

植栽への散水に雨水利用を行い、環境負荷低減とランニングコスト削減を両立します。また、屋上の樹木植栽についてはプランター埋込の納まりとし、万一の枯れ発生の際にも植え替えが比較的容易な計画とします。

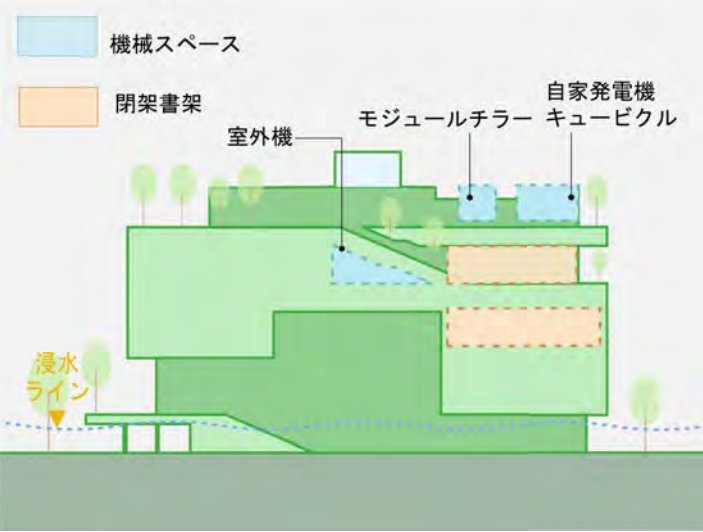


防災計画

防災に対しては公共施設として、被災時の損害を最低限度に抑える工夫を行います。

万一の災害時にも被害を抑える機械配置

敷地一帯は市が公開する洪水ハザードマップ(大阪府洪水リスク表示図)において0.5m～3.0mの浸水が想定される範囲に指定されています。非常用発電機やキュービクル、閉架書庫用の空調機等、施設における特に重要な設備については浸水高さを超える2階以上に配置し、万一の浸水災害に対しても被害の最小化を図ります。尚、施設としては帰宅困難者の一時的な受け入れ程度を想定し、共用部の開放等を検討します。



断面計画

建物外周をとりまく「スパイラルガーデン」と、建物内部を縦に貫く「ギャラリーウォーク」が、階ごとに明快に設定された用途区分を縦断して空間を繋ぎ、程よい距離感を保ちながら、相互に関わり合う緩やかな関係をつくりだします。特定の目的がある来館者にも、ふらっと訪れた無目的な来館者にも、全ての市民に居場所を提供する親しみやすい施設となることを目指します。

